鷗友学園女子中学校　二〇二四年度　第二回入学試験　【国語】　解答例と配点

一

（小計48点）

問一（10点）家族の食事を作るのは大変だが作りがいがあるということ。

問二（18点）パンデミック宣言後の数年間、今までと異なる忙しさに追われて時間の感覚がなくなっていることに気づいたので、母がしていたように家族の日常の出来事を書き留めておきたいと考えたから。

問三（20点）実家のあとに建てられた新築の家を目にし、その地面の下には自分たちもふくめた、昔からの日々の暮らしの記憶が存在し、それが今につながっていると教えられたような気がして、今自分が住む場所でも日々の暮らしをていねいに積み重ねていこうと思っている。

二

（小計42点）

問一（12点）小説を読んでいる間にその登場人物になりきって、さまざまな他人の人生を自分ごととして感じることができる経験。

問二（20点）絶え間なく情報を受け取る日常生活では立ち止まって考えることは難しいが、小説では読むのを中断し、情報の整理や違和感の確認ができる。その行為を繰り返すことで実人生でも自分を客観視する姿勢が身につくから。

問三（10点）実家の解体作業について、百々子は見ると泣くから見にいかないと言うのに対して、美海子は見にいこうとしているというちがい。　**※これは解答例のひとつです。他にも登場人物のちがいが表れているところはあります。**

三

（小計10点）

（2点×5）

(1) 散策　(2) 清算

(3) 破竹　(4) 除幕

(5) 枝葉末節

【出典】

一　角田光代『ゆうべの食卓』

二　真山仁『”正しい”を疑え！』